



■次のヒントは昔の庭に… (国指定特別名勝)栗林公園

香川県高松市栗林町 <http://www.pref.kagawa.jp/ritsurin/>

戦国時代末期の佐藤氏別邸から発し、高松歴代藩主の生駒氏、松平氏の別邸、栗林荘として100年以上の歳月を掛けて整備をされ、「一步一景」と謳われるその姿は「日本三名園の上」と言われています。太政官布告を受け明治8年に県立公園として開園し、その後、国の特別名勝指定を受けた日本最大の公園として、桜や紅葉など四季折々の景を求めて、多くの方が訪れています。

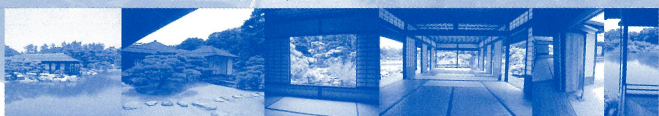


築庭以前は川の流れていた場所で、庭園の大半は川底であったそうです。吹上げ(水源)はその名残で、江戸時代には園内の池をため池とし、下流の村への農業用水として利用されていました。

庭園の背後にそびえる紫雲山。その岩肌がむき出しとなって西湖に浸る景は赤壁と呼ばれ、中央には人力で運び上げた水を流し、手前の茶室から鑑賞したとされる桶樋の滝があります。



栗林の名の通り、かつては飢饉に備えて栗が植えられていましたが、その後、藩内外から持ち寄せられた奇石、銘木とともに、五葉松・鶴亀松といった単木だけでなく、屏風松や箱松といった、長年の手入れによる独特な姿の松が多く、見所となっています。



園内には、休憩したり土産物を買える茶店のほか、日暮亭や掬月亭などの茶室を利用し、当時の楽しみ方を味わうことができます。中でも掬月亭は大茶屋といわれ、飛来峰を望む南湖に張り出すように建てられ、庭を楽しむ建築的工夫が見所です。



庭を見回ってふと気づくと、サイン、ゴミ箱など「外に出てしまうもの」には雰囲気や壊さないように、人の手をかけた優しい配慮がなされており、こうした心遣いに裏打ちされた魅力を実感しました。

水害、旱魃に悩まされた地には贅沢な庭と言えます。一方で薬草栽培の研究や、庭石の勧進や木や水の管理を通じた飢民対策は公共事業の原型であり、今も地域の産業・文化の発信の場として、掛け替えのない役割を果たしています。

◇後記◇筆力至らず庭園の背景や添景に終始しましたが、美しく雄大な名園であり、そこに身を於く為に旅行する価値のある場所です。うどんとセットで！ 竈 圭人 (株)スペースビジョン研究所